

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470101401
法人名	有限会社 紫恩
事業所名	グループホーム 紫恩
訪問調査日	平成20年6月26日
評価確定日	平成20年7月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 年 月 日

【評価実施概要】

事業所番号	1470101401
法人名	有限会社 紫恩
事業所名	グループホーム 紫恩
所在地	230-0071 横浜市鶴見区駒岡3-6-13 (電話) 045-580-3108

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F
訪問調査日	平成20年6月26日
評価確定日	平成20年7月31日

【情報提供票より】(平成20年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・(平) 18 年 3 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	21 人
利用定員数計	18 人
常勤	8 人
非常勤	13 人
常勤換算	15.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	45,000 円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(189,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円
	または1日当たり	1000 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 81.6 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団育成会佐々木病院、医療法人平和会平和病院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

在宅・デイ・特養・老健と経験した代表者及び管理者が認知症介護の理想型を求めて同じ志を持つ介護スタッフ8名で立ち上げたホームである。ホームは代表者の自宅の敷地内に建てられ、代表者及び管理者は生まれつき地元の人であり、スタート時点から地域密着型のホームである。その人脈、近所付き合いの中から知的障害者施設、駒岡地域ケアプラザ等とのネットワークが生まれ、一緒に食事を作る催しなどの活動が生まれ、地域に溶け込み、交流の輪を広げている。鍵を掛けない介護を確立し、それをサポートする地域のセーフティネットも広がりつつある。地域密着型に1歩踏み込んだホームの姿が見える。利用者さんは皆前向きで明るく、職員と一緒に楽しむパワーがある。職員は定着し、多目の配備で余裕があり、職員・利用者が一緒にこのパワーを生んでいると思える。紫恩祭、遠出の旅は云うに及ばず1対1の個別レクリエーションにも力を入れている。医療連携体制は取っていないが、往診ドクター、所内の看護師有資格者でターミナルにも充分対応出来る状況にある。認知症デイサービスも条件が調べば検討して行きたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での指摘事項は無かったが、今年度は個別のケアの実現を取り上げ取り組んだ。ご利用者さんには個別の要望があり、グループケアでは満たされない個人の要望に個別に対応し満足して頂くため居室担当者を設定し、1対1対応の外出の実現、居室担当者中心のアセスメントの強化を実現した。この個別ケアは充分なグループケアと盛り沢山の行事を実施された上での実施であり、介護要員の余裕の賜物と云える。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価に関しても自己評価の情報の吸い上げはユニット毎に、ユニットリーダー中心に先ず行った。このホームのトップは代表者、管理者、各ユニットリーダーの4人体制と強力で、職員は若手が多くパワフル、この両方が融合した活気溢れるホームで、自己評価に止まらず前向きにベクトルの合った体制が形成されている。自己評価版はトップ4人で纏め、評価のプロセス等での気付きは改善に繋げる予定である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は平成19年11月に第1回を開催して以降、計2回開催した。メンバーは連合町内会長、中町町内会長、駒岡地域ケアプラザ(地域包括師円センター)の所長、ご家族代表と事務局4名である。今まで2回の内容は主な活動報告、ホームの紹介などが中心であり、今後は防災等地元と協力出来るテーマを加えて行きたい。もともと代表者及び管理者は生まれつき地元の人であり、スタート時点から地域密着型のホームで町内会長の方々とは代々のお付き合いで、また駒岡地域ケアプラザとは行事の共催が出来る体制であるため運営推進会議はスムーズな展開が望める状態にある。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族へは居室担当がご利用者個別の日々の生活や情報を月に1回の家族通信やお便りなどで定期的にお伝えするようにしている。管理者はホーム全体の窓口として介護計画を始めとした重要な項目の情報のやり取りを責任をもってフォローしている。鶴見地区からの入居者が多いこともあってご家族の訪問頻度は多く、行事などにも協力的である。家族会も定期的に開催し定着している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>①駒岡地域ケアプラザでのバーベキュー大会に参加し、身障者にバザーで買い物をするなど協調関係にある。②近所にある身障者施設「一歩舎」などとの連携もある。③町内会への協力として日は決めていないが町のゴミ拾いを実施している。④近所のボランティアの方が週1回来てくれて体操教室を実施してくれている。(敷地内に新しく独自の集会所を新設しその中で実施)⑤はまっ子クラブの子どもたちが遊びに来てくれる。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは代表者の自宅の敷地内に建てられ、代表者及び管理者は地元の人であり、スタート時点から地域密着型のホームである。その人脈の中から知的障害者施設、駒岡地域ケアプラザ等とのネットワークが生まれ、交流の輪を広げている。理念は地域で生活する事を重要視した心ある介護を目指し、事業所独自の理念を職員全員で話し合い作成した(ブレインストーミング法)		一. 安心・思いやり・笑顔・こころある介護 一. その人らしさを大切に家族のように支えあう 一. 社会参加と地域貢献 全員理念を把握する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時には事業所内での研修を行い、理念の周知徹底に努めている。一人ひとりに理念、方針を明記したものを配布している。事務所内に掲示し、常に目に入るようにしている。		職員全員が把握でき毎日の業務に繋がるようユニット会議時に復唱を継続していく。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の行事や近隣の福祉施設の催し物への参加を積極的に参加している。近隣に在住の方がボランティアで週に1度、体操教室に来ている。外出時にはホーム特製のスタッフジャンパーを着用している。		更に地域活動の参加、地域・地元の人々との交流を心がけていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットリーダーを中心に、リーダー会、全体会議で話し合いをしている。	○	外部評価委員会の開催。 改善すべき事の把握と実施。 月に一度のリーダー会、全体会議の実施
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2回実施し、ホームでの活動報告をし、会議内での意見を参考にしている。もともと代表者及び管理者は生まれつき地元の人であり、スタート時点から地域密着型のホームで町内会長の方々とは代々のお付き合いで、また駒岡地域ケアプラザとは行事の共催が出来る体制であるため運営推進会議はスムーズな展開が望める状態にある。		今後も引き続き、運営推進会議を行っていき、地域との連絡を密にとり意見を取り入れていきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村からの研修に参加している。		更なる交流の場を積極的に確保していく。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会を定期的に行い、入居者の日常の生活や活動報告を行っている。月に1度日々の生活を家族通信にて個々に情報提供している。また、ホームのお便りも配布している。		今後も家族会を通しより良い情報交換をしていきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて家族の意見を設けている。常日頃から家族と気軽に話しが出来る環境作りに努めている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1階、2階合同で食事招待や合同レクリレーションをしている為ホーム内異動時などにはダメージを最小限にできている。合同の場を作り、スタッフも他ユニットの利用者ともコミュニケーションを図るようにしている。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他施設の見学や、施設内外研修を確保している。	○	今後は外部研修を多く取り入れ、内部の研究報告会も行っていきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問の機会を通じ交流の場を確保している。施設祭では町内会長、障害者地域作業所、ケアプラザを招き交流を深めている。		同業者同士の勉強会を実施していきたい。気軽に行き来できる関係の構築

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学やおやつやレクリエーションと一緒に過ごせるような機会を確保している。ほぼ全員見学して頂いている。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、生活の中で教えて頂く事は多い。職員は教えてもらう側として常に支え合う関係を心がけている。料理や針仕事、歌、花など教えて頂いている。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係を築き、利用者の思いを家族に相談しながら利用者のしたい事、行きたい所を職員と話し、1対1の個別レクの企画、実行している。居室担当を作り、希望や意見を確保できるようにしている。個別レクを多くし、本人の満足に繋げていく。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の家族と職員間での情報交換や変化のある時の臨時のカンファレンスを行っている。家族の参加を依頼し介護計画の決定につなげている。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化のある時はその都度カンファレンスを行っている。勤務上カンファレンスに参加できない職員はらしきシートを活用している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診等の支援を臨機応変に行い、家族の都合により支援している。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が希望により協力病院の往診を受けている。血液検査や往診内容、助言の報告はその都度行っている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期にあった利用者の家族、かかりつけ医とよくコミュニケーションをとり、ケアの方向性、対応等見極めケアを行うことにしている。	○	方針・マニュアルの作成
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケース記録に関しては施錠棚に保管している。言葉による拘束や上からの声かけ、感情による強い声かけに注意している。尊敬の意を常に持ちスタッフの感情による口調の強弱をなくし、接遇に力を入れていきたい。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の会話や体調、天候によりその日をどのように過ごすか意見交換をしている。希望時には外出できるように努力し、室内レクも行っている。徘徊の方も出れるように支援している。近所のケアプラザへ本を借りに行ったり、一人で買い物へ行ったり、散歩へ行かれる方もいる。家族と相談し決め、支援している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員とで毎日の献立を決め、献立表に準備をしてもらった利用者の名前を記入し、色々な方にやってみようようにしている。外食も良く行っている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日全員に声かけし、時間は夕方から夜にしておき、好きな時間に入浴できるよう支援している。季節に応じ、庭で取れたゆず湯や菖蒲湯、入浴剤も提供している。楽しむため、銭湯やスーパー銭湯の利用も行っている。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人のしたい事、その人の思いで探して頂けるよう支援している。作品の展示等も行っている。家事・買い物・散歩・花の世話・畑の水やり等をして頂いている。一人で散歩に行かれる方もいる。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調や天候にもよるが、できるだけ外出の機会多く確保できるよう声かけして頂いている。ほぼ全員野外の空気を吸って頂けるよう支援している。買い物、散歩、外出レクリエーション、一人散歩など実施している。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中に施錠していない。玄関開放時にチャイム(音楽)が流れるようにしている。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に独自のマニュアルを確認してもらい、助言を頂いた。町内会の消防訓練の参加。家庭防災員。近隣との付き合いもあり、協力を得られている。	○	運営推進会議での議題にする。防火責任者研修の受講

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック量の記入や人により自助具の使用、トロミ、刻みや、一口大の方もいる。水分補給は10時と15時にあり、外出後、入浴後に確保し、常に麦茶は用意してある。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる飾り物やカレンダーの作成や畑の作物収穫。共用の空間は日々の清掃、トイレは1日4回行い臭いや汚れを防いでいる		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、好みのものを持参して頂いている。本人の意思を尊重。買い物時は一緒に行き、好みの物を購入。今までの本人のライフスタイルにあったものになるようにしている。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム紫恩
(ユニット名)	すみれ
所在地 (県・市町村名)	横浜市鶴見区駒岡3-6-12
記入者名 (管理者)	青木 貴子
記入日	平成 20 年 6 月 17 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		一。安心・思いやり・笑顔・ところある介護 一。その人らしさを大切に家族のように支えあう 一。社会参加と地域貢献 全員理念を把握する。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		職員全員が把握でき毎日の業務に繋がるようユニット会議時に復唱を継続していく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		町内会、地域と相談した上でのゴミ拾い。地域の行事参加。地域貢献
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている		引き続き地域の行事協力・参加・貢献に努めたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		更に地域活動の参加、地域・地元の人々との交流を心がけていきたい。外出時にはスタッフジャンパーを着用する。
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年同様検討中で実施していない。	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットリーダーを中心に、リーダー会、全体会議で話し合いをしている。	○	外部評価委員会の開催。 改善すべき事の把握と実施。 月に一度のリーダー会、全体会議の実施
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2回実施し、ホームでの活動報告をし、会議内での意見を参考にしている。		今後も引き続き、運営推進会議を行っていき、地域との連絡を密にとり意見を取り入れていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村からの研修に参加している。		更なる交流の場を積極的に確保していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	グループホーム連絡会・協会の主催する県有参加。	○	必要な方が現時点ではないが、今後地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について必要な方への活用への支援が行えるように積極的に学んでいきたいと思う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム連絡会・協会の主催の研修参加。職員間では新聞等の記事については話し合いをしている。		引き続き勉強会、話し合える場所を開催していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に説明を行い理解、納得を頂いているが、説明不足な点もあるように思われる。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情申し立てについて説明を行っている。日頃も管理者やスタッフが不満や苦情を会話の中から聞きだしている。その情報を経過記録や日誌等で共有し、カンファレンスの課題として改善する。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会を定期的に行い、入居者の日常の生活や活動報告を行っている。月に1度日々の生活を家族通信にて個々に情報提供している。また、ホームのお便りも配布している。		今後も家族会を通しより良い情報交換をしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて家族の意見を設けている。常日頃から家族と気軽に話しが出来る環境作りに努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、リーダー会議を開催し、個別面談も行っている。		引き続き職員との人間関係の構築に努めたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常勤職員・非常勤職員が多いことで必要時は職員確保がしやす。職員間での助け合いや協力もできている。		今後もコミュニケーションをとり、助け合いや支え合いを重視していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1階、2階合同で食事招待や合同レクリレーションをしている為異動時にはダメージを最小限にできる。		合同の場を作り、スタッフも他ユニットの利用者ともコミュニケーションを図る。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他施設の見学や、施設内外研修を確保している。		今後は外部研修を多く取り入れ、内部の研究報告会も行っていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問の機会を通じ交流の場を確保している。施設祭では町内会長、障害者地域作業所、ケアプラザを招き交流を深めている。		同業者同士の勉強会を実施していきたい。気軽に行き来できる関係の構築
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ぶどうの会を設け親睦会、忘年会を行っている。日常的に会話を多く確保している。		施設全体(利用者・家族・職員)での一泊旅行を計画中。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	感謝の気持ちを伝え個々の性格を理解した上で向上心を引き出せる助言に努めている。		コミュニケーションの確保

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの情報や本人の意向や思いを把握できるように努めている。		声かけや関わりを十分に確保し、コミュニケーションを充分に取り、本人のしたい事を尊重した支援の徹底。家族からの情報も得ている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談や相談できる機会の確保や電話連絡を行っている		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々、困りごとの理解に努め相談にのっている。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学やおやつやレクリエーションと一緒に過ごせるような機会を確保している。		ほぼ全員見学して頂いている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、生活の中で教えて頂く事は多い。職員は教えてもらう側として常に支え合う関係を心がけている。		料理や針仕事、歌、花など教えて頂いている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況、情報を共有出来るよう日々のコミュニケーションの確保に努めている。家族会の参加や施設祭や夕涼み会などのボランティアをして下さる家族もいて、いつでも気軽に話せる関係を目指している。		今後も家族との信頼関係を築く。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常に家族の話をする。家族と一緒に外出レクの実施。電話連絡をとる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前利用されていたスーパーや薬局、美容院等を引き続き利用している。手紙や電話もされている。習い事(民謡教室)の継続。		民謡教室、スーパー、美容院、通院
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が間に入りより良い関係作りの支援を心がけている。利用者同士で居室で過ごされたり、入浴もされている。		引き続き利用者同士の買い物や散歩の確保。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在も寄贈して下さる家族がいる。入院されている方にはお見舞いに行っている。		積極的・継続的な関わりを作っていきたい。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係を築き、利用者の思いを家族に相談しながら利用者のしたい事、行きたい所を職員と話し、1対1の個別レクの企画、実行している。居室担当を作り、希望や意見を確保できるようにしている。		個別レクを多くし、本人の満足に繋げていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、在宅時のケアマネージャーからの情報収集を行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	2週間に1度の往診、3ヶ月に1度のカンファレンスを行いDrとの情報交換や指示を頂いている。職員間・家族との情報交換の機会を確保している。		1日2回の申し送り。個人記録、業務日誌の活用

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の家族と職員間での情報交換や変化のある時の臨時のカンファレンスを行っている。家族の参加を依頼し介護計画の決定につなげている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化のある時はその都度カンファレンスを行っている。勤務上カンファレンスに参加できない職員はらしきシートを活用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別ケース記録を記入し、出勤時にはケース、日誌に目を通す事としている。その日の朝には個別の1日の目標を職員で話し合い決めている。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診等の支援を臨機応変に行い、家族の都合により支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の小学生(浜っこスクール)との交流、週1回に在住ボランティアの方の体操教室、警察の夜間巡視、消防署からの助言を頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本年度も現在該当者なし。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本年度も現在該当者なし。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が希望により協力病院の往診を受けている。血液検査や往診内容、助言の報告はその都度行っている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診のDrが心療内科の為、利用者の状況の報告、助言を頂いている。記録にも残し職員も把握する。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤の看護師が1名勤務しており、情報把握に努めている。		他病院勤務の看護師によず勉強会を行った。今後も積極的に行う。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	本人の状態を把握し相談員との連絡主治医との医療情報提供素の連携もスムーズにできた。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期にあった利用者の家族、かかりつけ医とよくコミュニケーションをとり、ケアの方向性、対応等見極めケアを行った。	○	方針・マニュアルの作成
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医にその都度相談し、職員全員で協力し合い家族、本人の意思を尊重しケアを行った。		事業所として今後のあり方について検討していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の強い希望で元いた自宅に戻られた方がいる。転居先の役所やヘルパー、家族とも連絡を密にし、情報交換を行った。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケース記録に関しては施錠棚に保管している。言葉による拘束や上からの声かけ、感情による強い声かけに注意している。		尊敬の意を常に持ちスタッフの感情による口調の強弱をなくす。接遇に力を入れていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	声かけの工夫により利用者が意見できるようにしている。利用者個々に合った声かけを努め混乱を避けている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の会話や体調、天候によりその日をどのように過ごすか意見交換をしている。希望時には外出できるように努力し、室内レクも行っている。徘徊の方も出れるように支援している。		近所のケアプラザへ本を借りに行ったり、一人で買い物へ行ったり、散歩へ行かれる方もいる。家族と相談し決め、支援している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	介助の必要な方でも洋服の選び時は声かけし、お化粧をしての外出を行っている。また、訪問理美容を利用しているが行きつけの場所があるかたは、家族と行かれる。家族が散髪される方もいる。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員とで毎日の献立を決め、献立表に準備をしてもらった利用者の名前を記入し、色々な方にやってもらうようにしている。		外食
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人これまでされてきた習慣に合わせ、家族と相談しお酒を飲まれる方がいる。10時と15時に水分補給をしているが、それ以外でも自由に飲める。		飲酒、コーヒー、敷地内にある自動販売機
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自尊心を傷付けない声かけや、失敗時の声かけの工夫をし、尿意、便意を感じにくい利用者に対しチェック表を把握し、声かけ、トイレ誘導を行っている。		排泄チェック表
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日全員に声かけし、時間は夕方から夜にしており、好きな時間に入浴できるよう支援している。季節に応じ、庭で取れたゆず湯や菖蒲湯、入浴剤も提供している。		楽しむため、銭湯やスーパー銭湯の利用
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の休憩場所は本人の意思で決めている。入床時間も個々に合わせ、寝付けない方にはお茶やホットミルクを提供している。不安のような方には、安心に繋げるよう、添い寝や居室内での記録をしている。		夜間の巡視
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人のしたい事、その人の思いで探して頂けるよう支援している。作品の展示等も行っている。	○	家事・買い物・散歩・花の世話・畑の水やり等をして頂いている。一人で散歩に行かれる方もいる。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所内金庫にて管理している。買いたいものがある方については直接支払いが出来る方はして頂き、家族と検討した結果、一人で買い物に行かれる方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調や天候にもよるが、できるだけ外出の機会多く確保できるよう声かけしている。ほぼ全員野外の空気を吸って頂けるよう支援している。		買い物、散歩、外出レクリエーション、一人散歩
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	居室担当が中心となり、その人の行きたい所、したい事を個々に話し合い、個別レクとして実施している。少人数での外出の支援も行っている。	○	個別レクリエーション、コンサート、映画鑑賞、外食、ショッピング。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方に出来る限り支援している。またご自分から訴えの出来ない方は職員から声かけし、連絡を取るよう心掛けている。		家族への手紙や写真、本人が書いた絵を送る。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たち が、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過 せるよう工夫している	面会者の方にはお茶やお菓子を出しゆっくりと過して頂ける ように職員一同努めている。過される場所は居室の方が多 いが、食堂で皆さんと会話を楽しまれる家族もいる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定 基準における禁止の対象となる具体的な行 為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケ アに取り組んでいる	身体拘束はしていない。		勉強会を実施していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関 に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵を かけないケアに取り組んでいる	日中に施錠していない。玄関開放時にチャイム(音楽)が流れ るようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、 安全に配慮している	個々の行動パターンを把握し自尊心を傷付けないように配 慮し、安全確保に配慮している。		衣類チェック表・外出時の写真携帯・夜間巡視。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではな く、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取 組みをしている	全職員が個々に利用者の認知度の把握や注意の必要なも のを把握し、声掛け、見守りの徹底。薬品は施錠できる棚で の保管。		ヒヤリハットの活用。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ ための知識を学び、一人ひとりの状態に応じ た事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記入し、全職員が危険性の把握に努めている。 夜間に職員が一人の時には他の利用者の方にも協力して 頂き、事故防止に努めている。		ヒヤリハット。事故報告書・回覧・会議
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての 職員が応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行っている	地域の初期対応訓練に参加、マニュアルを作成している。定期 的な訓練は行えていない。	○	今後は定期的な訓練を行い事故発生時に全職員が対応 できるようにする。勉強会
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に独自のマニュアルを確認してもらい、助言を頂いた。町内会の消防訓練の参加。家庭防災員。近隣との付き合いもあり、協力を得られている。		運営推進会議での議題にする。防火責任者研修の受講
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や電話連絡にて家族との情報交換を常に行い、家族会でも情報交換や、リスクについて話し合いをしている。		積極的に行う。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの持つ病気等を表にし、普段から目を通しやすい環境を作っている。そこから状態の変化の早期発見につながる。その他、毎日のバイタル測定、排便の有無、食事摂取量、入浴時の皮膚の観察をし、申し送り、記録を残し情報の共有に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を作成し全職員がいつでも見える所に置いてある。個々のケース記録に内服薬記載。内服チェック表も記入している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日々の散歩や活動性維持の為の声かけを心がけている。繊維食物を多く確保し、ヤクルトやヨーグルトも取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後その人にあつた口腔ケアを行っている。協力歯科医の口腔ケアについての助言。		口腔ケア講習会の実施。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック量の記入や人により自助具の使用、トロミ、刻みや、一口大の方もいる。水分補給は10時と15時にあり、外出後、入浴後に確保し、常に麦茶は用意してある。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいの実践。衛生局よりプリント回覧。		研修への参加。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日賞味期限のチェックし、新鮮な食材を使用している。調理用は専用エプロン着用。台所は毎晩掃除の実施。スポンジやまな板の除菌の徹底。		マニュアルにより、清掃方法の統一。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには季節の花を育てベンチを置き観賞したり休憩、憩いの場としても使用できる。門もない為開放的。近隣の方が犬の散歩の途中に寄られる。		玄関内の整理・整頓。椅子を増やす。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる飾り物やカレンダーの作成や畑の作物収穫。共用の空間は日々の清掃、トイレは1日4回行き臭いや汚れを防いでいる	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席以外にもソファや椅子を置いてある。和室・居間は自由に使用出来る。	○	
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、好みのものを持参して頂いている。本人の意思を尊重。買い物時は一緒に行き、好みの物を購入。今までの本人のライフスタイルにあったものになるようにしている。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>朝の清掃時は窓を開けている。居室内、廊下、脱衣室についてある換気扇は24時間対応。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すり・バリアフリー・人により椅子を変えている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>見守りや分かりやすく声かけする為混乱を招かない様工夫、心がけ対応している。自信に繋がるような声かけ。得意分野を発揮できるようなケアに努めている。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>椅子を置き花を見ながら誰でも気軽におしゃべりできる。お茶飲み、日光浴、気分転換等の場として活用。</p>		<p>1・2階の利用者のコミュニケーションの場としてもっと活用したい。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 1、個別レクにて集団生活のストレスの軽減に努めている。
- 2、日中施設しない事。
- 3、地域交流
- 4、良好な職員関係が築けている。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明


評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム紫恩
(ユニット名)	ぎぎよう
所在地 (県・市町村名)	横浜市鶴見区駒岡3-6-12
記入者名 (管理者)	青木 貴子
記入日	平成 20 年 6 月 17 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		一。安心・思いやり・笑顔・ところある介護 一。その人らしさを大切に家族のように支えあう 一。社会参加と地域貢献 全員理念を把握する。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		職員全員が把握でき毎日の業務に繋がるようユニット会議時に復唱を継続していく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		町内会、地域と相談した上でのゴミ拾い。地域の行事参加。地域貢献
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		引き続き地域の行事協力・参加・貢献に努めたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		更に地域活動の参加、地域・地元の人々との交流を心がけていきたい。外出時にはスタッフジャンパーを着用する。
項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年同様検討中で実施していない。	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットリーダーを中心に、リーダー会、全体会議で話し合いをしている。	○	外部評価委員会の開催。 改善すべき事の把握と実施。 月に一度のリーダー会、全体会議の実施
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2回実施し、ホームでの活動報告をし、会議内での意見を参考にしている。		今後も引き続き、運営推進会議を行っていき、地域との連絡を密にとり意見を取り入れていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村からの研修に参加している。		更なる交流の場を積極的に確保していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	グループホーム連絡会・協会の主催する県有参加。	○	必要な方が現時点ではないが、今後地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について必要な方への活用への支援が行えるように積極的に学んでいきたいと思う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム連絡会・協会の主催の研修参加。職員間では新聞等の記事については話し合いをしている。		引き続き勉強会、話し合える場所を開催していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に説明を行い理解、納得を頂いているが、説明不足な点もあるように思われる。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情申し立てについて説明を行っている。日頃も管理者やスタッフが不満や苦情を会話の中から聞きだしている。その情報を経過記録や日誌等で共有し、カンファレンスの課題として改善する。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会を定期的に行い、入居者の日常の生活や活動報告を行っている。月に1度日々の生活を家族通信にて個々に情報提供している。また、ホームのお便りも配布している。		今後も家族会を通しより良い情報交換をしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて家族の意見を設けている。常日頃から家族と気軽に話しが出来る環境作りに努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、リーダー会議を開催し、個別面談も行っている。		引き続き職員との人間関係の構築に努めたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常勤職員・非常勤職員が多いことで必要時は職員確保がしやす。職員間での助け合いや協力もできている。		今後もコミュニケーションをとり、助け合いや支え合いを重視していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1階、2階合同で食事招待や合同レクリレーションをしている為異動時にはダメージを最小限にできる。		合同の場を作り、スタッフも他ユニットの利用者ともコミュニケーションを図る。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他施設の見学や、施設内外研修を確保している。		今後は外部研修を多く取り入れ、内部の研究報告会も行っていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問の機会を通じ交流の場を確保している。施設祭では町内会長、障害者地域作業所、ケアプラザを招き交流を深めている。		同業者同士の勉強会を実施していきたい。気軽に行き来できる関係の構築
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ぶどうの会を設け親睦会、忘年会を行っている。日常的に会話を多く確保している。		施設全体(利用者・家族・職員)での一泊旅行を計画中。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	感謝の気持ちを伝え個々の性格を理解した上で向上心を引き出せる助言に努めている。		コミュニケーションの確保

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの情報や本人の意向や思いを把握できるように努めている。		声かけや関わりを十分に確保し、コミュニケーションを充分に取り、本人のしたい事を尊重した支援の徹底。家族からの情報も得ている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談や相談できる機会の確保や電話連絡を行っている		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々、困りごとの理解に努め相談にのっている。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学やおやつやレクリエーションと一緒に過ごせるような機会を確保している。		ほぼ全員見学して頂いている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、生活の中で教えて頂く事は多い。職員は教えてもらう側として常に支え合う関係を心がけている。		料理や針仕事、歌、花など教えて頂いている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況、情報を共有出来るよう日々のコミュニケーションの確保に努めている。家族会の参加や施設祭や夕涼み会などのボランティアをして下さる家族もいて、いつでも気軽に話せる関係を目指している。		今後も家族との信頼関係を築く。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常に家族の話をする。家族と一緒に外出レクの実施。電話連絡をとる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前利用されていたスーパーや薬局、美容院等を引き続き利用している。手紙や電話もされている。習い事(民謡教室)の継続。		民謡教室、スーパー、美容院、通院
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が間に入りより良い関係作りの支援を心がけている。利用者同士で居室で過ごされたり、入浴もされている。		引き続き利用者同士の買い物や散歩の確保。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在も寄贈して下さる家族がいる。入院されている方にはお見舞いに行っている。		積極的・継続的な関わりを作っていきたい。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係を築き、利用者の思いを家族に相談しながら利用者のしたい事、行きたい所を職員と話し、1対1の個別レクの企画、実行している。居室担当を作り、希望や意見を確保できるようにしている。		個別レクを多くし、本人の満足に繋げていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、在宅時のケアマネージャーからの情報収集を行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	2週間に1度の往診、3ヶ月に1度のカンファレンスを行いDrとの情報交換や指示を頂いている。職員間・家族との情報交換の機会を確保している。		1日2回の申し送り。個人記録、業務日誌の活用

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の家族と職員間での情報交換や変化のある時の臨時のカンファレンスを行っている。家族の参加を依頼し介護計画の決定につなげている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化のある時はその都度カンファレンスを行っている。勤務上カンファレンスに参加できない職員はらしきシートを活用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別ケース記録を記入し、出勤時にはケース、日誌に目を通す事としている。その日の朝には個別の1日の目標を職員で話し合い決めている。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>病院受診等の支援を臨機応変に行い、家族の都合により支援している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>近隣の小学生(浜っこスクール)との交流、週1回に在住ボランティアの方の体操教室、警察の夜間巡視、消防署からの助言を頂いている。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>本年度も現在該当者なし。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>本年度も現在該当者なし。</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ほとんどの方が希望により協力病院の往診を受けている。血液検査や往診内容、助言の報告はその都度行っている。</p>		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>往診のDrが心療内科の為、利用者の状況の報告、助言を頂いている。記録にも残し職員も把握する。</p>		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤の看護師が1名勤務しており、情報把握に努めている。		他病院勤務の看護師によず勉強会を行った。今後も積極的に行う。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	本人の状態を把握し相談員との連絡主治医との医療情報提供素の連携もスムーズにできた。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期にあった利用者の家族、かかりつけ医とよくコミュニケーションをとり、ケアの方向性、対応等見極めケアを行った。	○	方針・マニュアルの作成
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医にその都度相談し、職員全員で協力し合い家族、本人の意思を尊重しケアを行った。		事業所として今後のあり方について検討していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の強い希望で元いた自宅に戻られた方がいる。転居先の役所やヘルパー、家族とも連絡を密にし、情報交換を行った。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケース記録に関しては施錠棚に保管している。言葉による拘束や上からの声かけ、感情による強い声かけに注意している。		尊敬の意を常に持ちスタッフの感情による口調の強弱をなくす。接遇に力を入れていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	声かけの工夫により利用者が意見できるようにしている。利用者個々に合った声かけを努め混乱を避けている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の会話や体調、天候によりその日をどのように過ごすか意見交換をしている。希望時には外出できるように努力し、室内レクも行っている。徘徊の方も出れるように支援している。		近所のケアプラザへ本を借りに行ったり、一人で買い物へ行ったり、散歩へ行かれる方もいる。家族と相談し決め、支援している。

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	介助の必要な方でも洋服の選び時は声かけし、お化粧をしての外出を行っている。また、訪問理美容を利用しているが行きつけの場所があるかたは、家族と行かれる。家族が散髪される方もいる。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員とで毎日の献立を決め、献立表に準備をしてもらった利用者の名前を記入し、色々な方にやってもらうようにしている。		外食
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人これまでされてきた習慣に合わせ、家族と相談しお酒を飲まれる方がいる。10時と15時に水分補給をしているが、それ以外でも自由に飲める。		飲酒、コーヒー、敷地内にある自動販売機

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自尊心を傷付けない声かけや、失敗時の声かけの工夫をし、尿意、便意を感じにくい利用者に対しチェック表を把握し、声かけ、トイレ誘導を行っている。		排泄チェック表
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日全員に声かけし、時間は夕方から夜にしており、好きな時間に入浴できるよう支援している。季節に応じ、庭で取れたゆず湯や菖蒲湯、入浴剤も提供している。		楽しむため、銭湯やスーパー銭湯の利用
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の休憩場所は本人の意思で決めている。入床時間も個々に合わせ、寝付けない方にはお茶やホットミルクを提供している。不安のような方には、安心に繋げるよう、添い寝や居室内での記録をしている。		夜間の巡視
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人のしたい事、その人の思いで探して頂けるよう支援している。作品の展示等も行っている。	○	家事・買い物・散歩・花の世話・畑の水やり等をして頂いている。一人で散歩に行かれる方もいる。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所内金庫にて管理している。買いたいものがある方については直接支払いが出来る方はして頂き、家族と検討した結果、一人で買い物に行かれる方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調や天候にもよるが、できるだけ外出の機会多く確保できるよう声かけしている。ほぼ全員野外の空気を吸って頂けるよう支援している。		買い物、散歩、外出レクリエーション、一人散歩
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	居室担当が中心となり、その人の行きたい所、したい事を個々に話し合い、個別レクとして実施している。少人数での外出の支援も行っている。	○	個別レクリエーション、コンサート、映画鑑賞、外食、ショッピング。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方に出来る限り支援している。またご自分から訴えの出来ない方は職員から声かけし、連絡を取るよう心掛けている。		家族への手紙や写真、本人が書いた絵を送る。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者の方にはお茶やお菓子を出しゆっくりと過して頂けるように職員一同努めている。過される場所は居室の方が多く、食堂で皆さんと会話を楽しまれる家族もいる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。		勉強会を実施していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中に施錠していない。玄関開放時にチャイム(音楽)が流れるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の行動パターンを把握し自尊心を傷付けないように配慮し、安全確保に配慮している。		衣類チェック表・外出時の写真携帯・夜間巡視。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全職員が個々に利用者の認知度の把握や注意の必要なものを把握し、声掛け、見守りの徹底。薬品は施錠できる棚での保管。		ヒヤリハットの活用。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記入し、全職員が危険性の把握に努めている。夜間に職員が一人の時には他の利用者の方にも協力して頂き、事故防止に努めている。		ヒヤリハット。事故報告書・回覧・会議
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	地域の初期対応訓練に参加、マニュアルを作成している。定期的な訓練は行っていない。	○	今後は定期的な訓練を行い事故発生時に全職員が対応できるようにする。勉強会
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に独自のマニュアルを確認してもらい、助言を頂いた。町内会の消防訓練の参加。家庭防災員。近隣との付き合いもあり、協力を得られている。		運営推進会議での議題にする。防火責任者研修の受講
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や電話連絡にて家族との情報交換を常に行い、家族会でも情報交換や、リスクについて話し合いをしている。		積極的に行う。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの持つ病気等を表にし、普段から目を通しやすい環境を作っている。そこから状態の変化の早期発見につながる。その他、毎日のバイタル測定、排便の有無、食事摂取量、入浴時の皮膚の観察をし、申し送り、記録を残し情報の共有に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を作成し全職員がいつでも見える所に置いてある。個々のケース記録に内服薬記載。内服チェック表も記入している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日々の散歩や活動性維持の為の声かけを心がけている。繊維食物を多く確保し、ヤクルトやヨーグルトも取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後その人にあつた口腔ケアを行っている。協力歯科医の口腔ケアについての助言。		口腔ケア講習会の実施。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック量の記入や人により自助具の使用、トロミ、刻みや、一口大の方もいる。水分補給は10時と15時にあり、外出後、入浴後に確保し、常に麦茶は用意してある。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいの実践。衛生局よりプリント回覧。		研修への参加。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日賞味期限のチェックし、新鮮な食材を使用している。調理用は専用エプロン着用。台所は毎晩掃除の実施。スポンジやまな板の除菌の徹底。		マニュアルにより、清掃方法の統一。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには季節の花を育てベンチを置き観賞したり休憩、憩いの場としても使用できる。門もない為開放的。近隣の方が犬の散歩の途中に寄られる。		玄関内の整理・整頓。椅子を増やす。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる飾り物やカレンダーの作成や畑の作物収穫。共用の空間は日々の清掃、トイレは1日4回行き臭いや汚れを防いでいる	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席以外にもソファや椅子を置いてある。和室・居間は自由に使用出来る。	○	
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、好みのものを持参して頂いている。本人の意思を尊重。買い物時は一緒に行き、好みの物を購入。今までの本人のライフスタイルにあったものになるようにしている。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>朝の清掃時は窓を開けている。居室内、廊下、脱衣室についてある換気扇は24時間対応。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すり・バリアフリー・人により椅子を変えている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>見守りや分かりやすく声かけする為混乱を招かない様工夫、心がけ対応している。自信に繋がるような声かけ。得意分野を発揮できるようなケアに努めている。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>椅子を置き花を見ながら誰でも気軽におしゃべりできる。お茶飲み、日光浴、気分転換等の場として活用。</p>		<p>1・2階の利用者のコミュニケーションの場としてもっと活用したい。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 1、個別レクにて集団生活のストレスの軽減に努めている。
- 2、日中施設しない事。
- 3、地域交流
- 4、良好な職員関係が築けている。